

令和7年度2月セッション_事例紹介①（音声テキスト）

【登壇者紹介】 司会

続きまして、事例紹介に進みます。

本日はパートナーとなる企業フィールドとなる市町村と一緒に取り組みを希望されている会員様にご発表いただきます。

セッション終了後、アンケートを実施しますので、発表を聞いて「連携してみたい、もっと詳しく聞いてみたい」という企業様はアンケートにご記入をお願いいたします。また発表ごとにアドバイザーお1人にコメントをお願いしております。それでは、PHI 株式会社様、CEO 繁田知延様からお話いただきます。よろしくお願いいたします。

【登壇者】 PHI 株式会社 CEO 繁田 知延 様

皆様改めまして PHI 株式会社の繁田です。

本日は貴重なお時間いただき、「アサガオ鉢で芽吹く共創型環境教育」というテーマでお話しさせていただきます。

本題に入ります。私たちは環境教育と地域資源循環をかけ合わせて、未来を担う子供たちを育成するということをミッションとしている企業です。

本日は埼玉県内の自治体様、教育機関様、そして企業の皆様に、私たちの取り組みを知っていただき、ぜひ埼玉から新しい循環モデルをともに作り上げるパートナーとなっていただければと思います、お時間をいただきました。

まず私たちが何者かについてお話させていただければと思います。PHI 株式会社は単に物をリサイクルするだけの会社ではありません。私たちの目的はリサイクルという手段を通じて子供たちに生きた学びを提供することです。今の学校教育では SDGs や環境問題を教科書で学びます。しかし実社会との接点は意外と少ないのが現状だというふうに考えています。私たちは地域から出る資源を教材として活用することで、教室の中と外をつないで、みずから考え行動できる持続可能な社会の作り手を育てることをミッションとしています。

では具体的な教材とは何か、この青いプラスチックの鉢、皆さんも見覚えがあるかと思います。日本の小学校に通ったことがある方ならほぼ全員が触れたことがあるアサガオなどのプラスチック鉢です。多くの小学校で1年生の夏に大切に育てたアサガオの鉢、しかしこのプラスチック製の鉢は卒業であるとか、学年の終了とともにその役割を終えてしまいます。これらはどうなるのでしょうか。多くの学校や家庭で廃棄されたり、庭やベランダの片隅で忘れ去られたりしています。私たちはここに注目しました。思い出の詰まったこの鉢をただのごみにするのではなく、次の資源として生かせないか、そこから私たちのプロジェクトは始まりました。

我々は役目を終えたプラスチック鉢を回収し、広島県の伝統的工芸品熊野筆の持ち手にアップサイクルするだけでなく、ここにストーリーを込めました。持ち手の深い藍色は徳島県さんの天然合いをプラスチックに乗り込んで表現しています。

これは勝色と呼ばれかつて戦国武将が縁起を担いだ日本古来の縁起の良い色です。つまり、子供たちが使い終わったプラスチックが長く愛され、伝統文化を支える一生ものの道具へと生まれ変わります。これを私たちは「JAPAN BLUE 熊野筆 勝色」と名付けました。

我々は物が循環する体験を通じて心を育む授業をお届けします。

このプロジェクトの真の価値は筆を作ることそのものではありません。その筆を使って行う授業にあります。子供たちにとって自分たちが一生懸命洗って出した鉢が美しい筆になって戻ってくる体験こそが、SDGs を自分ごとにする鍵です。

また私たちは世界的な水教育プログラム「Project WET」の認定エドューケーターでもあります。単なる座学ではなく、こうした質の高いアクティブラーニング型の授業を提供できる点も、学校現場からご評価いただいている理由です。

こうした取り組みは公的機関からも高い評価をいただいております。直近では環境省主催のプラスチックスマートアワード、プラスマアワード 2026 にて「作る」部門銀賞に選出いただきました。また、省庁含めた様々なステークホルダーとの連携も進んでおります。昨年は関西大阪万博にて本取り組みを紹介させていただきまして、来場された全国の皆様に筆を実際に使っていただくということもさせていただきました。

私たちは今このモデルを埼玉県からさらに広げていきたいというふうに考えています。2027 年には横浜で国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」が開催されます。

この世界的なイベントでこの筆、熊野筆がワークショップ等で活用される予定です。埼玉県内小学校での取り組みを全国そして世界へのサーキュラーエコノミーのモデルケースにしていきたいと思っています。埼玉の皆さんとも一緒に地域を超えた大きなムーブメントを起こしていきたいというふうに考えています。

ここからは具体的な提案になります。

まずは学校、自治体関係者の皆様向けです。

「廃棄予定のアサガオなどのプラスチック鉢がある」、「SDGs 教育の具体的なテーマを探している」という学校様はいらっしゃいませんか。費用負担であるとか、先生方のお手間を最小限に抑えた回収・教育プランをご提案可能です。

思い出の鉢を未来へつなぐパートナーとして、埼玉県内の学校、自治体の皆様と一緒したいです。なお、埼玉県内では深谷市様とすでに動き出しておりまして、来月 3 月 6 日に筆を活用した授業を実施します。こちら、もしご見学希望の方がいらっしゃいましたら、また個別にご相談いただければというふうに思います。

続いて企業の皆様向けになります。すでに環境教育であるとか、CSR 活動を実施されている企業の皆様、私たちとコラボレーションをしてみませんか。例えば御社の技術や製品に関する教育と、私たちの資源循環ストーリーを組み合わせることで、より深い学びを子供たちへ届けることができるというふうに考えています。また回収スキームの物流協力であるとか、イベントへの共催などのパートナーも

求めているというところです。御社のロゴと PHI の活動を掛け合わせて、新たな社会的価値を共創していければというふうに思っています。

こちらが最後のスライドになります。

画面に表示されている QR コードから詳細の資料のご請求であるとか、事業内容のご相談など、どのようなことでも大歓迎ですのでご連絡いただければと思います。

環境教育×地域資源循環、このサイクルを回すことで、子供たちの未来、そして地域の未来を豊かにしていく、ぜひ一緒にさいたまの未来を育てていければと思います。ご清聴いただきありがとうございますございました。

【質疑応答】

- ・（司会）ありがとうございました。オンラインでご参加の皆様はご質問がありましたら、Q&A にご投稿ください。それでは取り組みについて、川寄アドバイザーからコメントをお願いいたします。
- ・（川寄アドバイザー）繫田さん、どうもありがとうございました。さすがだなと思っておりました。この環境教育ってやはり非常に大切なことだけど、多分小学校の先生たちも、何を授業で教えたらいいのだろうと迷っていると聞いていたので、非常に良いと思いました。あと、1 つ質問があるのは、熊野筆、有名で聞いたことがあるような感じがしますが、熊野ではなく、埼玉の資源でこの筆は作れないものなののでしょうか。その辺、もしよろしければ教えてください。
- ・（繫田）はい、ありがとうございます。筆のところで、現時点では藍染の藍を混ぜるといった取り組みをしています。マニアックな話になりますが、アサガオの鉢はプラスチックの基材としては PP になります。なので、同じような PP 製の使用済みのプラスチックであれば混ぜて、この柄の部分成形することも検討できるのではないかと考えております。
具体的には、先ほど少しお話した深谷市さんと今検討しているのが、学用品であるアサガオの鉢に加えて、1 人 1 つずつ必ずその机の下に入れるお道具箱、これが同じ PP でできているというお話もいただいているので、そういったものも合わせて混ぜていくと、この筆の持ち手に変えていくということもできると思います。あとはこの PHI 株式会社で、昨年ご採択いただいた深谷の規格外の葱をまぜて成形するというようなこともさせていただきましたが、何かその地域の未利用資源を中に入れ込む形にすることで、より子供たちにもわかりやすい、その地域特性を生かした形での資源循環というところも検討ができるかなというふうに思います。そういった観点もぜひご相談いただいて一緒に作り上げていければなというふうに思っております。
- ・（川寄アドバイザー）筆の先の方ですね。熊野筆の筆って何で出来ている、何を原料としているのか。
- ・（繫田）筆の毛先の部分に関しては特殊な作り方をしています。まず材質としては、この書道筆に関しては、ヤギの毛とあとはリサイクルポリを配合しています。作り方としては毛先を切らずに、軸の側に引っ張って、その毛の形を作っていくという特殊な技法、日本の伝統的な製法というところになります。そ

れがゆえに毛先の部分が、引っ張って形づくるので、毛先に断面がないというところになりますので、書き味が良かったりするというのが熊野筆の特徴になります。

- ・（川寄アドバイザー） どうもありがとう。幼稚園でも筆を使っているので、ぜひお願いしたいと思います。
- ・（繫田） はい
- ・（司会） ありがとうございます。ご質問をいただいております。
「庭などで長年放置されているアサガオのプラスチック鉢はかなり劣化していると思いますが、収集する鉢の状態は問わないのでしょうか。」こちら、ご質問の方来ていますのでお願いいたします。
- ・（繫田） 今までも、庭に置かれていた、学校の校庭に何年か置かれていた鉢も含めて回収させていただいて成型を行っていますが、そこも含めて問題ないと、成型ができるというところの確認が取れておりますので、ご安心いただければと思います。
- ・（司会） それでは PHI 株式会社様の取組発表を終了させていただきます。